

平成29年 減災に向けた取組事例

平成30年2月27日

十勝川外減災対策協議会

ソフト対策の主な取組状況(ハザードマップの整備と周知)

○国直轄管理河川沿川の12市町村において、国や北海道が策定した想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づき、ハザードマップの整備と周知を行うこととしている

●平成29年10～11月に12市町村に聞き取りしたハザードマップの作成状況は以下のとおり

進捗状況	市町村名	備考
作成済み	清水町	全戸配布済み
作成中又は平成29年度中に作成予定	中札内村、幕別町、音更町、豊頃町、新得町	
平成30年度以降に作成予定	池田町、本別町、帯広市、士幌町、浦幌町、芽室町	



平成29年10月に全戸配布したハザードマップ(清水町)

【帯広市】平成28年台風10号での経験を踏まえた訓練を実施しました

- 平成28年台風10号の経験を踏まえ、災害に強いまちづくりの基本である「自らの命は自らで守る」の観点から、減災対策協議会構成機関と連携した防災訓練を実施
- 訓練では広報車、緊急速報メール、Lアラート等を活用した避難情報の発信、水中歩行体験などの訓練や、水害対応資機材の展示等を実施

訓練概要

実施日：平成29年9月3日
実施場所：帯広市立第一中学校（帯広市西13条北7丁目1）
主催：帯広市、啓北連合町内会
参加機関：十勝総合振興局、とちかち広域消防局、帯広開発建設部、陸上自衛隊第5旅団第4普通科連隊、帯広測候所、日本赤十字社帯広市地区奉仕団
参加人数：約600人

●避難情報発信訓練



Lアラートによる情報配信（訓練モード） 緊急速報メールの訓練配信

訓練は必要。命を守るための
防災意識を高めていきたい

●体験訓練等



水害体験訓練（水中歩行体験）

水中歩行体験により、
濁った水の中を歩くこと
の危険さがわかった



防災講話（水害への備え）

●展示コーナー



排水ポンプ車展示（帯広開発建設部）



救出ボート展示（帯広警察署）



水害パネル展示

見て覚え、実際に体験
してみて、今後に役立
てられそう

【新得町】天気予報を活用した避難行動ワークショップを開催

○天気予報を有効に活用しながら自然災害に備えるため、変化する天候に応じた避難準備や避難するタイミングなどを話し合い、選択するワークショップなどを実施

取組概要

実施日:平成29年11月12日
実施場所:新得町公民館(新得町4条南4丁目)
主催:新得町、新得町連合町内会
参加機関:新得町、町内会長、町民等
参加人数:約60人

- ・早めの準備と行動の大切さを学んだ。
- ・各世代を交えた訓練の必要性を感じた。



気象予報士による「天気予報の賢い・楽しい活用法」説明



ワークショップの様子



参加者からの発表

【芽室町】洪水後の「振り返り」を踏まえた訓練を実施しました

- 平成28年の洪水により甚大な被害を受けた芽室町において、検証結果で抽出された問題点や課題を解決するため、他機関と連携した防災訓練を実施
- 芽室町の西地区を流れる河川(芽室川、ピウカ川)で氾濫の危険性が高まったという想定で、要配慮者支援訓練及び避難行動訓練を実施

訓練概要

実施日:平成29年9月24日
実施場所:芽室町勤労青少年ホーム
(避難場所)
主催:芽室町
参加機関:十勝総合振興局、帯広測候所、
芽室町、芽室消防団、
帯広警察署、民間業者
参加人数:約150人

タイムラインに基づいて、対策本部の各部が行うことについて確認した。



災害対策本部運営訓練状況



参加者は避難先に到着次第、防災無線を使用して災害対策本部に避難状況の報告を実施

車両を使用した場合の避難方法、経路を確認することができた。



警察、消防団を交えた避難誘導訓練を実施し、各機関の連携強化を図った

町内会が、町内会ごとの避難訓練計画を作成し、町との合同避難訓練を行ってはどうか。



避難先では、段ボールベッド体験やパネル展示を行い、防災意識向上を図った



消防団所有の車両による避難所までの輸送訓練を実施し、手順を確認

【中札内村】住民と協働した「地域防災力向上」の取り組み

- 平成28年8月の大雨を受けて、いざというときの対応について、中札内村で起こりうる災害と避難方法など必要な備えを学び、防災に対する意識を高めました
- 減災対策協議会を活用し、清水町から平成28年洪水での「教訓」を学ぶとともに、防災非常食の試食や避難所運営ゲーム「Doはぐ」を行い、防災対策の課題について学びました

教訓から学ぶ～清水町の災害事例を学び、中札内村を考える

実施日：平成29年7月24日 実施場所：文化創造センター
主催：中札内村PTA連合会 参加機関：清水町、中札内村
参加人数：約50人



村でも水害があるかもしれないので、その時、家族の命を守ること、避難することの大切さを理解した。

避難所運営ゲームから防災を学ぶ～避難所運営をみんなで考える

実施日：平成29年11月15日 実施場所：中札内中学校
主催：中札内中学校、中札内村 参加機関：中札内村
参加人数：約50人



避難所の運営は、やることが多く、大変だなと感じた。

【幕別町】洪水ハザードマップの周知を行いました

○「洪水ハザードマップ」の更新及び「防災のしおり」の改訂に伴い、地区別公区長会議において、洪水浸水想定区域や浸水深、避難場所等の変更点の説明を実施

取組概要

実施日：平成29年11月13日、14日、16日、17日
実施場所：札幌コミュニティプラザ、忠類ふれあいセンター福寿、幕別町役場
主催：幕別町
参加機関：行政区の長（公区長）
参加人数：91人

- ・洪水浸水想定区域の拡大による避難対象者の増加により、避難所に収容しきれぬのかが心配される。
- ・避難経路が浸水し避難ができない場合があるので、早期に避難情報を発信してほしい。



幕別町の説明状況



公区長からの質問



説明会場の様子

【本別町】自主防災組織による防災訓練を実施

○本別町において、大雨による利別川の氾濫及び浸水害を想定した避難行動と自主防災組織の強化を図る目的で机上による避難経路や危険箇所の確認と、要配慮者の支援を含めた防災訓練を実施した。

訓練概要

実施日：平成29年12月3日13:00～15:30

実施場所：本別町南地区集会場

主催：南2丁目自治会、本別町

参加機関：南2丁目自治会、本別警察署

参加人数：30人

実施内容：昨年の台風による被害状況
町の防災対策と自主防災組織の役割
冬期防災訓練参加者からの報告
災害(大雨)図上訓練

参加者から
「高齢者や要援護者の避難行動の開始時期や安否確認など勉強になった」
「DIGを通じて安全な避難経路や浸水箇所が確認できた」
「自主防災組織における自分の役割が確認できた」
などのコメントがありました。



【釧路地方気象台】防災気象情報の活用に関する説明を実施しました

○減災対策協議会の構成機関が主催する講習会や訓練等の場で、気象庁として気象による災害を防ぐために、平成28年の台風による大雨の解説や各種防災気象情報の利用方法について説明

実施日	実施場所	主催者	参加機関	参加人数
平成29年2月9日	芽室町中央公民館	芽室町社会教育協会連絡協議会	単位社会教育協会の会長・役員及び会員	約20人
平成29年3月4日	池田町西部地域コミュニティセンター	池田町ふれあいたすけあいのつどい実行委員会	ボランティア団体、町内会連合会などの参加希望者	約80人
平成29年5月29日	十勝総合振興局	釧路気象台、帯広測候所、十勝総合振興局	十勝管内市町村、とちかち広域消防局、帯広開発建設部、海上保安署、陸上自衛隊、警察署、北海道電力、JR、NTT、ドコモ、十勝バス、NHK、北海道新聞、FMラジオ	約120人
平成29年6月15日	帯広市市民文化ホール	帯広市わかば会	わかば会会員	約500人
平成29年6月30日	新得消防署	新得消防署	署員、団員	約40人
平成29年7月21日	音更町共栄コミュニティセンター	帯広開発建設部	十勝管内市町村、とちかち広域消防局、帯広測候所	約140人



【帯広開建・芽室町】災害時の情報収集及び提供を円滑に行うために防災通信訓練を実施

- 帯広開発建設部では、芽室町と連携し、災害時の応急復旧作業等の支援をするため災害対策用機械・機器を使用した、防災通信訓練を実施
- 訓練は災害想定箇所に衛星通信車を配置し、現地状況を確認しながら芽室町役場、北海道開発局、帯広開発建設部の3者によるTV会議を行うとともに、光ケーブル切断を想定した応急復旧作業を実施

実施日:平成29年7月31日
実施場所:十勝川祥栄橋(災害想定箇所)、芽室町役場
主催:帯広開発建設部
参加機関:芽室町、北海道開発局(帯広開発建設部)、災害協定会社
参加人数:約30人



災害想定箇所(十勝川祥栄橋付近)

平成28年8月台風では、電気通信施設の光ケーブルが切断され、自治体に河川・道路を監視する映像が送信できない事態となった

災害協定会社と打合せ中

衛星通信車設置

光ケーブル応急復旧作業状況